

## 第4回のテーマ:哲学的ゾンビ

### 問題意識:

**哲学的ゾンビ**(英語: Philosophical zombie、略: p-zombie)とは、心の哲学で使われる言葉である。「物理的・化学的・電氣的な反応としては、普通の人間と全く同じであるが、意識(クオリア)を全く持っていない人間」と定義される。

デイヴィッド・チャーメーズが1990年代にクオリアの説明に用いた思考実験であり心の哲学者たちの間で有名になった。

ホラー映画に出てくるゾンビと区別するために、**現象ゾンビ**(Phenomenal Zombie)とも呼ばれる。ゾンビの概念を用いて物理主義を批判するこの論証のことを**ゾンビ論法**(Zombie Argument)、または**想像可能性論法**(Conceivability Argument)と呼ぶ。

### 廣松渉(1914–1996)

フェノメノン(現象)は、即自的に、その都度すでに、単なる”感性的”所与以上の或るものとして現われる。いま聞こえた音は自動車のクラクションとして、窓の外に見えるのは松の樹として、直覺的に現われる。私がいま机の上のところがあるものを見るとき、それを端的に「鉛筆」として意識する。この鉛筆は、単なる平面図形にしか見えない”筈”であるが、私には有体的な、厚みをもった「もの」ein Dingとして意識される。それは単なる射映としてではなく、ケルパーハフトなゲシュタルトとして意識される。一たん目を閉じてもう一度それを見る際には、再認の意識がともなう。すなわち”同じ鉛筆”として意識される。

『世界の共同主観的存在構造』(p. 44)

### ディスカッション・ポイント

- 「意識」とはどのようなこと？
- 誰が「意識」する？意識の主体は？
- 「意識」に関する事実は、物理的事実とは別？